

# 水素基本戦略（案）概要

平成29年12月26日

経済産業省

# 水素基本戦略のポイント

- 2050年を視野に入れたビジョン + 2030年までの行動計画
- 水素を再エネと並ぶ新たなエネルギーの選択肢として提示
  - ⇒ 世界最先端を行く日本の水素技術で世界のカーボンフリー化を牽引
- 目標：ガソリンやLNGと同程度のコストの実現（現在: 100円/Nm<sup>3</sup> ⇒ '30年: 30円/Nm<sup>3</sup> ⇒ 将来: 20円/Nm<sup>3</sup>）

## <水素の低コスト化のための3条件>

供給と利用の両面での  
取組が必要

【供給側】

- ① 安価な原料（= 海外褐炭、余剰再エネなどの活用）
- ② 大量に製造・輸送するためのサプライチェーンの構築

【利用側】

- … ③ 大量の利用（自動車 ⇒ 発電 ⇒ 産業）

### ①②供給側の取組

- 安価な原料で水素を大量製造
  - 褐炭(石炭の1/10以下) や海外再エネ(国内の1/10程度)を活用。
- 国際的なサプライチェーン構築により大量輸入
  - 日オーストラリア間/日ブルネイ間の国際水素輸送プロジェクトにより、褐炭水素製造や水素の大量輸送技術の開発を進め、'30年頃の商用化を目指す。
- 地域の再エネを最大限活用
  - 福島（浪江町）の水素拠点化に向け、世界最大級の再エネ水素製造実証を通じて、将来の余剰再エネ活用の先駆けとする。福島産水素は'20年オリパラでも活用。

### ③利用側の取組

- FCV/FCバス/水素ステーションの普及加速
  - '20年代後半のFCV関連ビジネス自立化に向け、
    - ① 低コスト化技術開発（ステーションコストを'20年までに半減）、
    - ② 規制改革（ステーション無人化の実現等）、
    - ③ ステーションの戦略的整備（来春設立の新会社が整備加速）を進める。
  - FCVのみならず、バス、フォークリフト、さらには、トラック、船等への用途展開により水素利用の横展開。
- 水素発電の商用化・大量消費
  - 世界初の水素発電所（神戸）が年明けから実証運転開始するなど、'30年頃の商用化に向け、実証・技術開発を推進。

# 水素基本戦略のシナリオ

